

飛躍

HIYAKU

第250号



東海大学付属高輪台高等学校 学校報

●発行日/2006年12月1日

●発行者/東海大学付属高輪台高等学校 校長・杉一郎

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate thy thought in thy early days

若き日に汝の体躯を養え

Make thy body vigorous in thy early days

若き日に汝の智能を磨け

Improve thy wisdom in thy early days

若き日に汝の希望を星につなげ

Chain thy hope to the stars in thy early days

TOP*NEWS

全日本吹奏楽コンクール

高輪台高等学校の名が再び全国に響く

吹奏楽部 2年連続、4度目の金賞に輝く。おめでとう

部員154名の団結と協力のたまもの

生徒会新役員決定



第54回全日本吹奏楽コンクールで見事金賞に輝いた吹奏楽部



生徒会新役員のみなさん 後列左から、北村君、福島さん、三並君、鈴木君
前列左から、久能さん、山川君、興安君



旧役員のみなさん 後列左から、松橋君、山川君、北村君、小森君
前列左から、山澤さん、久能さん、高橋さん

吹奏楽部 全日本吹奏楽コンクール金賞受賞

**サポートしてくれた皆さんありがとう。
部員154名で取った金賞です。**



吹奏楽部部長
太田 沙織

3年4組
横浜市立保土ヶ谷中学校出身

私たち吹奏楽部は、10月22日に杉並区・普門館にて行われた全日本吹奏楽コンクールにおいて金賞を受賞いたしました。吹奏楽の甲子園と言われる普門館で演奏できたこと、そして金賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。

本番の12分間は私にはとても長く感じられました。緊張はしましたが、意外と落ち着いて演奏できたと思います。表彰式で「ゴールド、金賞」と耳に響いた瞬間を忘れられません。



ここまでの道のりは容易なものではありませんでした。泣いたり笑ったり、時には部員どうしの意見のぶつかり合いもありました。でも、その経験があっただけでなく、その金賞だと思います。壁を乗り越えられたときにしか味わえない感動や喜びを知ることができました。いつも熱心な指導で私たちにヒントやアドバイスを下さった先生方、応援して下さいました保護者の方々、そして何よりコンクールメンバーを色々な面でサポートしてくれてくれた部員全員に感謝したいと思います。部員154人全員で取った金賞です！これからも全日本金賞の名に恥じないよう、日々練習を重ね素晴らしい演奏ができるように頑張りたいと思います。



生徒会新役員決まる

11月16日の生徒会役員選挙で来年度の役員が決定しました。旧役員の久能麻依さんが生徒会長に、また山川翔太郎君、北村昌也君も再選されました。昨年の経験を活かし、全校生徒のリーダーとして活躍してください。そして先輩たちが築いてきた生徒会の伝統をさらに発展させ、新しい歴史を作ってください。また全生徒諸君も協力しましょう。

生徒会新役員のひとこと

会長 2年10組 久能 麻依

昨年の副会長の経験を生かして生徒会会長を目指しました。そして今回生徒会長になれました。正直、当選するとは思っていませんでしたので、少し戸惑いがありました。しかし、会長になったからには、公約を果たすことを前提にし、様々なことに力を入れていきたいと思っています。これから1年間、生徒会メンバーと共に頑張ります。

副会長 2年1組 與安 一誠

僕は、立会演説のときに「官から民へ」ということを公約として掲げましたが、「小さな政府」を実現するためには皆さんの協力が必要不可欠です。一生懸命頑張りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。僕は高輪台のリンカーンになりたいと思います。

副会長 2年10組 山川 翔太郎

今回、再び生徒会役員になれたことをとてもうれしく思っています。それとともに一年間、責任の重い役職として、仕事をこなしていくことに対する不安も少しあります。来年、設立される中等部の校則や行事への参加法など、今までに無かった新しい仕事もあります。去年会計としてやってきた一年間の経験をどのように生かしていくのか、それも含めてこれから一年自分ができることをしっかりと実行していきたいと思っています。

会計 1年8組 三並 拓馬

私は1年間という貴重な任期のなかで生徒会という存在をもっと身近に感じてもらえるよう努力していきたいと考えています。具体的な政策として、生徒会の運営するページの開設などがあります。他の役員とも話し合いながら「開かれた生徒会」を実現させます。

会計 1年11組 鈴木 晴久

今回、生徒会の新役員になることが出来ました。まだ未熟な私ですが、生徒会の一員として、学校のため、生徒のみなさんのために最善の努力をしたいと思っています。これから皆さんに協力していただくことが多々あります。どうぞよろしく御願います。

書記 2年10組 北村 昌也

今回、書記になれたことをとても嬉しく思っています。書記という立場ではありますが、これから1年間、しっかりと仕事をこなしていきたいと思っています。昨年の貴重な経験を生かしてみなさんの役に立てるよう、精一杯頑張っていきますのでよろしく御願います。

書記 1年11組 福島 ちえ美

私は書記の役目として、多くの生徒に読んでもらえるような新聞を発行したいと思っています。生徒会役員という立場に重圧もありますが、他にもいろいろなことをどんどん企画していこうと張り切っていますので、これからの1年間、どうぞよろしく御願います。

生徒会旧役員のひとこと

会長 3年7組 松橋 鑑

1年間生徒会長の任期を終え、沢山のことを学ぶことができました。そしてたくさんの思い出を作ることが出来ました。多くのことに触れ、体験した1年間でした。納得できたこと、もっと努力が必要だったことなど力不足を実感しましたが、それは充実した1年となりました。しかし1年間何事もなく任期を全うできたのは、役員のみなさんや、先生方、みなさまの支えがあったからだと思います。心より感謝申し上げます。新規役員のかた是非がんばってください。

副会長 3年1組 高橋 奈々恵

2年間の生徒会で、1年目は会計として先輩についていき、いろいろのことを学びました。そして今年度は副会長という立場で、会計の時の経験を生かし、予算・決算などの仕事をこなしてきました。これも先生方や生徒会メンバーの協力のおかげでできたことだと思います。2年間という短い期間でしたが、貴重な経験ができました。本当にありがとうございました。

副会長 2年10組 久能 麻衣

私は1年間生徒会副会長という大役をさせて頂きました。初めは何をしたらいいのか分からないことばかりでした。しかし仕事を重ねて行くに連れて仕事の楽しさ、みんなで協力する大切さなどを知ることが出来ました。生徒会副会長をさせて頂けたおかげで、私自身が大きく成長できたと思います。生徒会で学んだことを活かして、これから色々なことに挑戦していきたいと思っています。

会計 2年10組 北村 昌也

生徒会会計を1年間試みて、普段何気ない学校生活の裏で先生方のご尽力があったことや、学校運営の大変さなどが分かりました。今まで経験したことのない貴重な経験でした。あっという間に過ぎてしまったこの1年間の貴重な体験を、これからも大切に生かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

会計 2年10組 山川 翔太郎

1年間、私が生徒会会計をしてきた時間は、とても充実したものでした。役員1人1人が自分の役割をこなしていました。そして私も、出来ることを精一杯やる事が出来ました。学校のために働いたというこの経験は、とても私の自信になったと思います。

書記 3年7組 山澤 いずみ

この1年間を振り返ると、私は先生方や生徒会の大変さを知ることが出来ました。私にとって生徒会活動は初めての経験でした。戸惑うこともありましたが、役員と協力し、様々な仕事をやり遂げることが出来ました。充実した日々を送ることができ、この経験は私自身のプラスになりました。

書記 3年8組 小森 康平

私は生徒会を勤めて、今まで体験したことのないことができ、自分をより一層高みに上げることができたと思います。全体を通して、色々な考え方を知ったり、仕事の流れを把握するなど、これから先にも必要なことを体験し、学ぶことが出来ました。生徒会に入って良かったと思います。

2007年度東海大学付属推薦入学合格者決定 多くの生徒が希望の専門分野に進む

今年度、東海大学へ付属推薦入学する生徒は487名で、希望者の全員が合格しました。これは、在籍生徒数の81%です。進路指導主任・学年主任の計画的な指導と学級担任のきめ細かな生徒指導の結果、多くの生徒が、希望した分野へ進学が決まりました。

今年度は、適性審査が行われる学部学科への進学者が増えました。特に、医学部や看護系の学科への増加が目につきました。またパイロット養成コースの「航空操縦学専攻」に合格者が出たのも特筆すべきことです。それぞれ早い段階から適性を把握して、目標を定め、日々の学習を積み重ねた努力の結果です。合格決定後は、大学での講義を理解する基礎学力と知的好奇心の活性化を図ることが大切です。それぞれの進学先の学科からは、「研究レポート」の提出が指示されます。その課題について本を読む必要があると思いますが、これとは別に、この時期にこそ様々なジャンルの本を読んだり、よい映像に接して己に磨きをかけて下さい。卒業生から、高校時代にもっと勉強しておけば良かったと後悔の声を良く聞きます。また、体験留学に参加している生徒達が持ち帰ってくる様々なことを、一人でも多くの生徒諸君が学びとって、新たな自己実現にのぞんで欲しいと思います。



●推薦状況

大学・短期大学	学部・校舎	人数
東海大学	文学部	87
	政治経済学部	46
	法学部	52
	教養学部	42
	体育学部	18
	理学部	24
	情報理工学部	48
	工学部	88
	情報デザイン工学部	1
	開発工学部	7
	海洋学部	12
	医学部	3
	健康科学部	16
小計		444
北海道東海大学	国際文化学部	3
	工学部	1
	芸術工学部	3
小計		7
東海大学短期大学部	高輪校舎	14
	静岡校舎	5
小計		19
東海大学医療技術短期大学		9
ハワイ東海インターナショナルカレッジ		8
小計		17
総合計		487

体験留学の報告



福島 彩花

3年10組
私立清明学園中学校出身

自然と英語力が身に付く

私は、研修旅行で行ったオーストラリアで異国の人と話すことの面白さや大切さを感じました。そこで理工系にしようと考えていた進路を、文学部英語文化コミュニケーション学科に変更しました。内定も無事に決まり、9月末から体験留学生として週に2回、東海大学湘南校舎に通っています。授業は、ネイティブの先生によってすべて英語によるスピーキングや日本語を英訳するライティング等で、大学生に混じって受講します。簡単ではありませんが、とても充実した内容で、自然と英語力が身につくを実感しています。私はこの学科で語学力だけではなく、国際社会で通用する教養や人間性等も養いたいと思っています。進路も決まり生活がたるみがちです。しかし卒業する時に後悔が残らないよう一日一日を大切に過ごしていきたいです。

建学祭 バザー・けやき屋食堂 収益金を寄贈していただく

後援会の皆様ありがとうございます。
生徒に還元させていただきます。

今年も、後援会からバザーとけやき屋食堂の収益金として、1,708,065円という多額のご寄付を頂きました。昨年度は収益金より、近隣のかた、生徒、職員などの不慮の事態に備えて、AED（自動体外式除細動器）を校内に2台、グラウンドに1台設置させて頂きました。今年度の建学祭におきましても、多くの保護者の皆様にはバザー用品を抛出していただきました。



また後援会委員の皆様には連日、バザーの値付けや販売、けやきや食堂での調理、運営にたいへんお骨折りを頂きました。その結果の大きな収益でした。皆様のご厚意をありがたく頂き、生徒に還元できるものをご購入させていただきます。現在、校内の各階に設置してありますウォータークーラーの一部破損がはじまっています。この収益金で新品をご購入させて頂きたいと思っております。また、卒業アルバム、卒業CDや学校報『飛躍』、ホームページなどの編集に使用するためのデジタルカメラ・ビデオカメラ等の購入にも充てさせて頂きたいと思っています。ありがとうございました。

部・同好会活動紹介

スキー部

顧問 橋健治・山田武範 部員数 32名

0.01秒の世界を滑走

石川 一希

2年5組 中央区立日本橋中学校出身

さぁ！スキーの季節になりました。私たちスキー部は普段は主に屋上やB2、B3で筋力、持久力のトレーニングを行い、また、次シーズンを思い浮かべながら工夫をし、さまざまなトレーニングに励んでいます。そして今年もついにシーズンが始まり、初滑りとして10月、狭山スキー場に行ってきました。人工スキー場ですが、合宿や大会に向けてさらに良い滑りになるよう練習しています。12月と3月には合宿があり、自然の広幅のゲレンデで滑走ができ、大会でより速いタイムを出すために真剣に練習に取り組んでいます。夏は各自でスキースクールの合宿などに参加し、リフトがなく板をかつぎあげるようなところで練習をする人もいます。そして年に3回大会があります。1月の大会は年が明けるとすぐに長野県野辺山であります。野辺山の夜はマイ

ナス15℃以下、日中でも氷点下という非常に寒いところ。レースは選考会を上位で通過した者のみが次の日の本戦に出場することができ、0.01秒という差でも順位を離されてしまうほど厳しいものです。また選手は夜遅くまで板の調整をし、良い結果に繋がるように皆がサポートし合っています。うちの部員たちは、決して個人競技だとは思っていません、良い人間関係を作り上げています。技術だけでなくスキーを通じて多くのことを学びました。目下、新入部員、大歓迎です。



日本晴れのもと体育祭を実施 歓喜の音がさいたま総合グラウンドに響く

高輪台高校3大行事の一つ、剛健旅行が7月長野県を襲った集中豪雨のため中止となりました。特に3年生には残念だったことでしょう。不運なことに体育祭も、当日、予備日も天候不良で実施できませんでした。そこで改めて10月26日を体育祭と設定しました。この日はこれまでにない日本晴れでした。体育祭実行委員長の堀盛雄君の挨拶で開会し、6色の色団に各学年が分かれて競技が行われました。どの色団も学年の垣根を超え互いに応援し、さいたま総合グラウンドに歓喜の音が響き、活気ある体育祭になりました。

●全生徒がいずれかの種目の選手となって1年生から3年生までがリレーをします。



選手宣誓

「僕たちはルールに則り、正々堂々と闘うことを誓います」
体育祭副実行委員長松倉翔吾君、声たからかに選手宣誓をする



ラジオ体操

野球部キャプテン2年6組川村健太君のリードでラジオ体操



玉入れ

お手玉をいくつも手に。そーれっ!!



大玉おくり

紅白の大玉を落とさないで送る。あっ落ちちゃった!!



昼休み

1年女子。日頃体育の時間に練習したダンス「ペコリナイト」を披露



台風の日

物干し竿を5人の選手がもって目的のボールを回って帰還するリレー。
足並みがそろわないとボールをうまくまわれない

優勝 緑組
準優勝 白組
第3位 オレンジ組

	3年(クラス)	2年(クラス)	1年(クラス)
赤	1・10	3・7	9
オレンジ	2・5	2・8	10
黄	3・6	9	1・5
緑	4・7	4・10	4・8
青	8・12	1・5	7・11
白	9・11	6	2・3・6

障害物競走 飴くいゾーン
 男子はキャタピラに入って、女子は飴くい競走。
 口のまわりが真っ白になっちゃった



元気な女子6人

飴くい競走で真っ白に化粧したこの顔で、ハイ、チーズ!!



棒引き

油断は大敵。1本でも多く陣地に引っ張り込む!!



障害物競走 キャタピラゾーン

男子は段ボールのキャタピラに入って



綱引き

腰を落として、息を合わせてヨイショ!うーん腕がすりむける!!

リレー

最後の種目。全校生徒の応援が悲鳴になる。テープを切るのは3年9組の程田朋希君。全力疾走で白組の優勝。おめでとう



●大きなけが人もなく、体育祭が終わりました。疲労の顔と、満足な顔、これで高校生活の全行事が終わってしまうと感慨に耽る顔と顔。夕暮れまでには皆バスに乗って帰途に。主にサッカー部、ラグビー部が率先して後始末の協力をしてくれました。ご苦労様。

科学倫理

SSH活動報告

10月30日、総合大学院大教授池内先生を初め3人の講師を招いて科学倫理の発表会を行いました。グループに分かれ、東海大学医学部付属病院・防衛庁・環境省などを訪問し、生命倫理、環境倫理、科学技術の平和利用について、調査・研究し、発表しました。今地球規模で抱えている問題をいかに一人ひとりが考えなければいけないか、あるいは科学技術が一歩間違えると兵器になるのだと実感した様子です。

地球温暖化防止は自分たちの周りで
できることから実践する

松本 美由紀

3年11組 川崎市立塚越中学校出身

私たちは、政府の地球温暖化対策について調べるため環境省に行きました。省内ではクールビズや電気の節約、不用になった紙の分別などを徹底して行っていました。さすがに環境省だけあって地球に優しい取り組みをしていると感じました。男性は、半袖シャツのボタンを1つ開け、ネクタイをしない格好をすることで、エアコンの温度設定を下げなくとも、扇風機で、暑くも寒くもない快適な温度を保っていました。また、使用するエレベーターは一基のみに限定。そして勤務中にもかかわらず、日中は消灯して仕事をするという徹底ぶりです。不用になった紙は、その種類によって家庭よりもはるかに多くの種類に分別していました。さらに、名刺の紙がカレンダーの紙を再利用していたことに驚きました。今回、環境省に行って感じたことは、地球温暖化防止という大きな問題に取り組むために、まず自分達の身の周りで出来ることから実践することが大切なのだと思います。



講評・助言して下さる池内先生

科学技術の平和利用：
「軍事技術と民生技術」

芳賀 俊紀

3年11組 横浜市立新羽中学校出身

科学技術の平和利用について、興味があったロボットについて調べ発表しました。ロボット技術というと「アイボ」などの家庭用のロボットがあります。一方では軍事目的で作られたロボットもあります。そこで、今回、私が調べたのは筑波大学の山海教授らの研究グループが開発し、軍事転用されかけたロボットスーツについて調べました。

元々は介助目的として始まった研究です。それが、始まって早々にアメリカ国防総省からロボットスーツの研究を軍事転用したい、と教授らに申し出があったそうです。しかし、教授らは「研究者の良心を大切にしたい」とこの申し出を断ったそうです。そしてあくまでも介助用ロボットとして研究を続けたそうです。科学技術は平和と人類のためにあらなければならない。戦争に使われるべきではない。しかし、現実の科学技術は軍事技術と民生技術が裏腹にあるのだと、分かりました。また、発表後、講評して下さった池内先生からお褒めの言葉を頂きました。

CO₂削減についての発表の様子

病院の安楽死などの概念

秋田 悠太

3年11組 横浜市立森中学校出身

死はどの人間(生物)に対しても必ずやってくるもので、それから逃れることはできません。私は科学倫理の生物班で“生命の終末”について調査しました。このテーマでは、安楽死・尊厳死・臓器移植に分かれて調べ、実際に臓器移植ネットワークや伊勢原の東海大学病院を見学しました。現場の医師に、安楽死・尊厳死をどのように考えているのか尋ねました。医療現場では安楽死などの概念はないということでした。

私は、この授業を通して“死”がいつとはわからないが必ず訪れるのだと改めて実感しました。テーマの一環として調べてきた安楽死・尊厳死等も是か非か簡単に決められないのが現状です。だからといってその問題から逃れるわけにもいきません。“死”というものを認識し、考えてゆくべきではないでしょうか。今が議論の時であると思います。



生命倫理について議論する生徒達

Rits Super Science Fair 2006

11月2日から5日までの間、立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC)でSuper Science Fair2006(SSF2006)がありました。世界10カ国から高校生が集まって研究発表をする国際大会です。本校から生徒4名が参加しました。英語力のレベルの高さに生徒は圧倒されていました。3年の武佑哉君がパワーポイントで、1年生の松尾泰介君、鈴木晴久君、小野関裕君がポスターセッションで発表しました。英語力に不安を感じるといながらも、意図が伝わったことを喜ぶことが出来ました。大きな刺激となり、励みになったことと思います。

Rits Super Science Fair 本校生徒も積極的に参加

山田 武範
理科担当

立命館大学で開催されたRits Super Science Fairに生徒4名とともに参加してきました。この会は世界10カ国の高校生が参加している国際規模の大会です。それらの国々の人々に対する確かな英語で対応している高校生スタッフたち、参加生徒の発表やディスカッションのレベルの高さ、そして多くの異国の友人を作っている生徒たちの姿…など、多くのことに驚かされました。しかし本校から参加した生徒たちも、その中で積極的にコミュニケーションをとり、そして負けず劣らず堂々とした発表やディスカッションをしていました。感心しました。私が高校生の頃にこのような機会があったとしても、大勢の前でプレゼンテーションをしたり、異国のの人々と積極的に話をすることはできなかったかもしれません。それらのことに意欲的に挑戦した生徒たちは、かなり高い能力を持っているように思います。彼らの今後の成長がとても楽しみです。



英語で研究発表する武君



英語でポスターセッションする松尾君

充実したSSF参加でしたが 英語の力不足を痛感

松尾 泰介
1年11組 世田谷区立富士中学校出身

今回はじめてSuper Science Fair2006(SSF)に参加しました。このSSFは全て英語で行われました。今回、私は夏の科学体験学習旅行と核融合についてポスターセッションをしました。英語できちんと説明できるか不安でした。

私が参加して一番強く感じたことは、英語のレベルの高さです。会話はほとんど英語で、研究発表は話すスピードも速く、その上難しい単語や専門用語が多く、理解できずに発表が終わってしまうということも多々ありました。外国人と話すときも、一生懸命できるだけ英語を使って話しても言いたいことが伝わらず、とても悔しい思いもしました。同じ日本の参加者は皆英語を母国語のように使いこなし、私の英語力の未熟さを痛感しました。しかし、これまで経験したことのないようなことをたくさん経験することができました。これからも英語の力をもっと伸ばしてSSH活動に取り組んでいきたいと思っています。

研究が評価され、 一方いまだ未熟な英語力

武 佑哉
3年11組 我孫子市立我孫子中学校出身

この4日間は英語中心の生活でした。昨年参加した際は、英会話とレベルの高い発表に圧倒されました。そこで今回は、発表を成功させることと、流暢な英会話を目標に参加しました。発表内容は、「豆乳の生クリームを作る」です。今年も他校の研究は「極小磁石でガン細胞を発見する」など、私より遥かにレベルの高いものばかりで、概要をつかむのがやっとでした。私の発表の質疑の時、St.Jhons校の先生が、「とても独創的で、面白い研究でした。この生クリームが製品として発売されるといいですね」と評価してくださいました。私の英語が伝わった喜びと、研究が褒められた達成感を私は忘れないと思います。

英会話に関しては、自分の言いたいことは伝えられ、ある程度のことは理解できました。しかし会話が盛り上がった時には必ず会話につまり、うまくいきませんでした。それでも面白い単語を教えてもらったり、アドレスを交換したり楽しい思い出も残せました。自分の周りが英語圏になったようなこの4日間でした。この経験をさせてくださった先生方、ありがとうございます。



いろいろな国の方とのディスカッション

2006年度学校運営方針 学校改革・改善⑥

豊かな人間形成を願って 学習と部活動の両立を目指すように指導

精神的にも肉体的にもいまだ発達段階にある高校生は、幅広い知識を学習で身につけ、同時に、体力を養い、協調性、忍耐力、精神力、技能などを養わなければなりません。本校は東海大学付属高校という大きなメリットがあります。希望する生徒のほとんどが東海大学に入学でき、厳しい受験競争から生徒は半ば解放されています。そのため、学力偏重に偏ることなく、あるいは受験勉強に追われることなく、部活動との両立が可能です。文武両道にたけた豊かな人間になって欲しいと、学習と部活動の両立をはかることを学校の目標としています。



成績上位者のほとんどが部活動に参加

1年生の前期成績を見ますと、成績上位者132名の86%にあたる114名が、部・同好会に所属しています。学習と部活動の両立を図っていることがわかります。

学校のサポート

強化部を始め、すべての部・同好会が学習と部活動の両立ができるように教務部、進路指導部、生徒部、学年部などが協力し、サポートします。

学力水準を維持した上での重点強化部

野球部	男子バスケットボール部
サッカー部	女子バレーボール部
柔道部(男子)	吹奏楽部



今年度の主な実績

全国大会：ダンス部 ミスダンスドリル大会 ヒップホップ部門5位
吹奏楽部 2年連続4回目の全国大会金賞受賞
関東大会：アーチェリー 女子個人 八尾 美都世／真島 志帆
柔道部 男子団体出場
レスリング 落合 隆 出場
なぎなた 和田 うらら 出場

今、この瞬間(とき)を大切に、 学習と部活動の両立

2年9組 北区立紅葉中学校出身 高橋 愛

私は吹奏楽部に所属しています。部活動と学習の両立をするには時間をどれだけうまく使えるかにかかっていると、私は思います。しかしだからといって、いつも部活動と学習を両立させよう意識しているわけではありません。ただ部活動中は練習にうちこみ、数ある本番での演奏が成功するように励んでいます。時には辛い時もありますが、思いきり楽しんで練習したいと思っています。一方勉強は、部活動で帰宅が遅くなるため、家庭学習というより、学校での授業の中で、集中し、吸収しようと考えています。とにかく一度しかない「今」を楽しみたい、大切にしたいと思っています。だから吹奏楽部のスローガンである「今、この瞬間(とき)を大切に」は、部活動だけでなく私自身の生活のスローガンになっています。



第2回受験生・保護者対象学校説明見学会に参加者1,300余名 学習と部活動の両立を掲げる本校の教育方針が高く評価される

10月15日、東海大学付属高輪台高等学校と中等部の来年度入試のための第2回学校説明見学会が行われました。中・高合わせて、1,300余名の受験生・保護者が来校されました。昨年度同時期の説明会参加人数の約2倍です。

会場となったアリーナは、最後部まで満員、途中から中等部の説明会場を隣の短大の331教室に移しました。しかし、こちらでも補助のパイプ椅子を準備するなど対応に追われました。先日の建学祭でも、5,000名を超える入場者を迎え、このときの入試相談コーナーで、昨年度の倍となる550名の入試相談を受けました。これといった、宣伝広告をしていない本校です。その本校と来春開校する中等部の説明会に、これほど多くの方々が来校してくださったのです。ここ数年、予備校化している私立中学校・高等学校が多く見受けられます。一方で偏差値重視の教育、詰め込み教育の弊害が言われています。これは本来成長過程の中学生、高校生に必要な幅広い学習や部活動を軽んじるものです。本校の学校説明見学会への参加者の増加は、みなさんがこのような教育状況を否定し、学習と部活動の両立をうたった本校の教育方針・目標を評価し、関心を集めたものだと思います。また、受験生・保護者の案内に当たってくれた吹奏楽部生徒のさわやかな

態度、アリーナで練習をする運動部諸君のていねいな挨拶が、さらに評価を高めています。

今後、11月11日(土)、12月10日(日)に行う中・高合同学校説明見学会に加えて、1月14日(日)には中等部だけの学校説明見学会を追加することにしました。多くの方々に、さらに本校の特色を理解していただきたいと思います。



高輪短大 INFORMATION

システム開発の体験

情報・ネットワーク学科特任講師 星野 祐子



卒業研究では、将来の職業として、プログラマーやシステムエンジニアを目指す学生を中心にソフトウェア開発をしています。特にデータベースはほとんどのシステムで使われていますので、

テーマを決め、開発者と顧客の立場に別れて、システムの仕様を決めていきます。今回は、Webページの作成、プログラミング、データベース操作といった授業で習ってきた技術はもちろん、顧客と

今回はデータベースを使用したソフトウェアを設計段階から開発しています。

はじめに自分たちで作成してみたいシステムのテーマ

話をして、顧客の要望を理解し、仕様書(システムの設計図)を作成することにも挑戦しています。実際に顧客からの要求分析をしたり、仕様書を書いたりするのは初めての学生ばかりなので、順調には行きませんが、頑張って進めています。実際の仕事現場同様に納期(卒研発表会)に間に合うように一致団結してプロジェクトを進めることで、技術だけでなく、コミュニケーション能力や協調性を養うことも目的としています。

お知らせ

3年生特別講座開始

**自らが学び、探求する姿勢で
このときをたいせつに!!**

12月7日(木)から1月31日(水)までの期間、3年生は通常の時間割から離れた特別講座が始まります。大学の授業に備えて、高校時代に身につけておかなければならない知識などを、これまでの授業とは別の角度から学びます。これから卒業までの期間は3年生にとって、自らが学び、探求する姿勢を高める時です。真価が問われる時です。このときを大切に。

第26回 ヨーロッパ研修旅行

2006年
12月19日(火)
~ **12月29日(金)**

ヨーロッパの文化と歴史を訪ねる旅です。デンマーク・ドイツ・オーストリア・フランスの諸都市を訪問。本校から10名参加。

行事予定

December **12**月

January | 月

- 1日(金) 朝礼
- 2日(土) 後援会委員総会
- 4日(月) **中間試験(1,2年) (~7日)**
卒業試験(3年) (~7日)
- 8日(金) **生徒自宅学習(3年)**
- 10日(日) **受験生・保護者第4回学校説明見学会(10:00~)**
- 11日(月) 答案返却日、校医相談日(13:30~16:00)
- 12日(火) 特別講座開始(3年)、専門医によるカウンセラー
- 15日(金) 入試相談(**生徒自宅学習**)
- 16日(土) 2年スポーツ大会(アリーナ)
- 19日(火) ヨーロッパ研修旅行(~29日)
- 20日(水) 金曜日の授業
- 22日(金) 冬期休暇前諸注意・大掃除(7限目)
- 23日(土) **天皇誕生日**、希望者講習(~28日)、冬季休暇(~1月8日)
- 24日(日) 吹奏楽部第17回定期演奏会(ミュウザ川崎)(17:30~20:00)
- 25日(月) 吹奏楽部第17回定期演奏会(ミュウザ川崎)(17:30~20:00)
- 29日(金) 年末年始休暇(~1月5日)

- 1日(月) **元旦**、カナダ中期留学(~2月27日)
- 3日(水) SHIP事前研修(成田)
- 4日(木) SHIP(~2月24日)
- 6日(土) 新春懇親会
- 8日(月) **成人の日**
- 9日(火) 朝礼・授業開始
- 10日(水) 専門医によるカウンセリング
- 13日(土) 東海大学進学相談会(2年)(8:15~16:15)
- 14日(日) **中等部受験生・保護者第5回学校説明見学会**
- 18日(木) **本校推薦願書受付**、校医相談日(13:30~17:00)
- 20日(土) 1年スポーツ大会(アリーナ)
中等部願書受付(第1回~1月31日・第2回~2月2日)
- 22日(月) **本校推薦入試(生徒自宅学習日)**
- 23日(火) **本校推薦入試合発表**
- 24日(水) **本校推薦入学手続き**
- 25日(木) **本校一般願書受付(~31日)**
- 27日(土) 英検・漢検(9:00~12:00)
- 31日(水) 特別講座終了(3年)

昼休みのスナップ



編集後記

2006年が終わる。10月の北朝鮮の核実験で世界が揺れた。ノーベル物理学賞受賞の湯川秀樹博士は、被爆国日本の物理学者の責任であると、生涯を核兵器廃絶にかけた人である。「核抑止論は核の拡散を意味する。人類と核は共存できない。」と亡くなる直前まで世界に発信していた。結局、博士の予想通り、核拡散防止条約も意味をなさなかった。現有核兵器の威力を生徒が調べた。地球を35個破壊できるそうだ。原爆開発に関与したアインシュタインが湯川夫妻の手をとって涙を流して広島・長崎のことを謝った。戦後、アインシュタインは核廃絶の運動を立ち上げて間もなく逝去。高校現代文明論を学ぶ私たちも、また被爆国日本人としてもこのことについて考える責務がある。2007年が良い年であるように。(ゆ)

東海大学付属高輪台高等学校

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ: <http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>